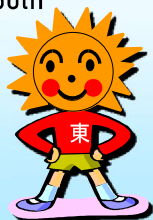


50th



川越市立霞ヶ関東小学校だより

# たいよう

第5号 令和6年9月2日(月)

学校教育目標

- 【た】 たくましい子
- 【い】 生き生きと活動する子
- 【よ】 よく考える子
- 【う】 美しい心の子

## パリ・オリンピックから ～2学期も頑張ろう～

校長 関根 努

長い夏休みが終わり、子供たちの元気な声と笑顔が学校に戻ってきました。1学期と変わらずに校門で大きな声であいさつしてくれる子供が多く、朝から元気を貰い嬉しく思いました。2学期は、運動会や50周年記念式典、音楽会など学校行事や校外学習等が数多くあります。実りの秋となるよう、教職員一同力を合わせて取り組んでまいります。

さて、7月26日から8月11日まで、第33回夏季オリンピック競技大会がフランス・パリで開催されました。32競技329種目が実施され、参加国・地域数207、約1万人が参加しました。連日テレビ・新聞等で報道され、日本人選手の活躍に一喜一憂される方も多かったのではないのでしょうか。

現地時間3日に行われた柔道混合団体決勝では、日本は金メダルをかけてフランスと戦いましたが、惜敗し銀メダルとなりました。この中で体操元日本代表の内村航平氏のコメントが印象に残ったので紹介します。

「日本発祥の武道と、フランスで一番人気なスポーツ・柔道の国と国の意地のぶつかり合いを見ていて、すごく面白かったですし、結果としては日本が銀メダルという自分の国が一番を取れなかったくやしさももちろんありますけど。でも、本当によく頑張ったと思います。僕も同じお家芸として、多分団体で銀メダルだったらすみませんでしたって言うと思うんです。言ってきたと思います。でも、選手たちにはそういう思いをしてほしくないの、見ている日本のみなさんが『銀メダルでもいいんだよ、よく頑張ったよ』と言ってほしいなって。それだけでも、選手は心が救われると思うので、ぜひそういう言葉をかけてほしいなって思いました。」

オリンピックに4大会連続で出場し、メダル7個(金3・銀4)を獲得した内村氏だからこそ出てきた視点であり、重みのあるコメントだと思いました。

2学期は、運動会や音楽会、持久走大会などがあり、順位や成果が出てきます。結果が悪くても、一生懸命に行う姿に対してあたたかく応援できる子供たちに育てていきたいです。また、学習に対しても、失敗したことを笑うのではなく、応援したり、一緒に考えたりできるようにあたたかい学校づくりをしてまいります。

パリ2024パラリンピック競技大会は、8月28日から9月8日までの12日間にわたり、パラリンピック選手4,400人が一堂に会して開催されています。内村氏の言葉から「凄いよ！よく頑張ったよ！」と選手に言葉をかけるつもりでパラリンピックも楽しもうと思います。

